

# 地域創生・産学連携研究所 アニュアルレポート 2024

Regional Revitalization and Industry  
Academia Cooperation Research Center  
Annual Report 2024



産業能率大学

発刊にあたって

平素より地域創生・産学連携研究所の活動に多大なるご支援・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。2024年度より地域創生・産学連携研究所長の小林幸平と申します。当研究所は2021年度より、前任の岩井研究所長のもとスタートし、今年度より私が引き継がせて頂きました。

当研究所立ち上げ当初からの活動目的は、経営学部における地域連携型授業である「自由が丘イベントコラボレーション」、「自由が丘コンシェルジュ」、「石垣島－自由が丘ブランディング」、「自由が丘スイーツプロモーション」及び情報マネジメント学部において2022年度から授業化された湘南オリーブを活用した「地域ブランド創造プロジェクト」について、授業の進め方を共有することにより授業の相乗効果をより高め、質の向上を図ることです。また、本学の経営学部、情報マネジメント学部における地域連携および産学連携活動を教員からのコラムにより幅広く世の中に広報することです。加えて今年度より、地域創生・産学連携研究所所員間での情報やノウハウの共有も進めております。

2024年度は期初から行動制限等もなく、コロナ禍前の水準で活発に授業外活動を行うことができました。特に10月に行われた自由が丘女神まつりは、事前にテレビ番組で特集が組まれたこともあり、非常に多くの来街者で賑わい、参加した学生たちは生き生きと活動しておりました。

今後も当研究所では、本学の強みのひとつであるPBL型教育の質的向上を目指し、研究活動を行って参る所存です。引き続きご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

産業能率大学

地域創生・産学連携研究所長

小林 幸平

# 目次

|                                                                          |    |
|--------------------------------------------------------------------------|----|
| 発刊にあたって 小林 幸平 .....                                                      | 巻頭 |
| 少数精鋭で臨んだ2024年度自由が丘スイーツプロモーションの振り返り 小林 幸平 .....                           | 2  |
| 石垣島ー自由が丘ブランディング2024振り返り 高原 純一、小林 幸平 .....                                | 5  |
| 2024年度自由が丘コンシェルジュ授業振り返り<br>～特別招聘講師講義に焦点をあてて～ 櫻井 恵里子 .....                | 8  |
| 過去最大級の大盛り上がりを見せた自由が丘イベントコラボレーション 小杉 樹彦 .....                             | 11 |
| 街案内人 セザンジュの活動報告 都留 信行 .....                                              | 13 |
| プロスポーツ選手のセカンドキャリアとオリーブ栽培<br>一元湘南ベルマーレフットサルクラブキャプテンとのコラボレーションー 松岡 俊 ..... | 15 |
| 自由が丘イベントコラボレーション第16期報告 西村 康樹 .....                                       | 17 |
| 総合研究所が2024年度に実施した産学連携の振り返り 川合 広訓、天野 健司 .....                             | 20 |
| あとがき .....                                                               | 22 |

## 操作方法

＼タイトルをClick!／  
希望のページへ



：目次のタイトルをクリックすると  
希望のページに進みます。

目次へ戻る

：目次ページへ戻ります。

# 少数精鋭で臨んだ 2024年度自由が丘スイーツプロモーションの振り返り

小林 幸平

## はじめに

この授業は、世界的に著名なパティシエである辻口博啓氏や自由が丘の商店街、その他様々な企業・団体のご協力のもと、3年生向けに通年で実施している。PBL（Project Based Learning）型の授業であり、企画を机上で検討するだけでなく、実際に実現し、運営や運用するところまで携わることができるのが授業の魅力である。スイーツプロモーションと聞くと、スイーツの商品企画の授業と思われがちだが、実はそうではない。当授業は、「スイーツで自由が丘を盛り上げる」というコンセプトのもと企画を考えていく。そのため、商品企画のみならず、幅広くあらゆる企画を考え、実現することができる。例えば過去には、来街者に自由が丘の様々なスイーツ店に仕込まれた“謎”を順番に解いて回り、自由が丘のスイーツ店を周遊してもらうような企画や、スイーツ製作を通じて子供の教育に役立てる“スイーツ育”をテーマにした動画を配信するなど、企画は多岐に渡る。

幅広く企画を考えられる一方で、表層的な企画では受け入れてもらえず、そこにきちんとしたコンセプトや想い、妥当性がないと実現にこぎつけることはできない。辻口シェフをはじめ、ビジネス経験豊富な講師陣が提示するような高いハードルを一生懸命超えようと努力するからこそ、一年間で劇的に成長する履修生がいるのも、当授業の大きな特徴である。

## 2024年度授業の状況

2024年度は結果的に、履修生5名での授業となった。これまでは十数名～二十数名程度の履修生がいたため、例年にない状況であった。しかしその分、かなり密に履修生に接することができたのは、ひとつの収穫であるといえる。企画のフィードバックに対する向き合い方や、関係者への対応の仕方、報連相やチーム内の状況など、人数が少ないことにより例年以上にモニタリングでき、把握しやすい状況であった。

履修生にとっては、多くの講師から常に見られているという状況のため常に気を張り続けなければならず、負担となる部分もあったであろうと推察できる。しかしながら、その状況の中で適宜アドバイスをもらいながら過ごした一年間は、5名の履修生の成長を促すものであったと考える。

## 活動内容の紹介

2024年度は、5月4日～6日に開催された“自由が丘スイーツフェスタ”も授業に組み込み、履修生に参加してもらうこととした。当イベントは時期的に、4月に授業が始まって間もないタイミングであり、履修生が何かを企画して参加することは難しいため、2023年度は参加を見送った。しかしながら、10月の“自由が丘女神まつり”を授業に組み込んでおり、例年そこに向けて企画を検討するグループも多いことから、イベントの雰囲気や運営を経験してもらうことと、自由が丘の街の関係者との人脈作りを目的として参加した。

主な活動内容としては、辻口シェフの出身地である能登半島で2024年1月に発生した地震の被災地支援の募金活動であった。辻口シェフもお忙しい中、募金活動と一緒に参加して下さり、履修生たちも、大変だった中でもやりがいを感じることができた経験であった。

その後の授業では5名の履修生が2つのグループに分かれ、相互に協力し合いつつも、グループごとに企画を考え、提案を重ねた。

詳細は後述するが、結果的にひとつのグループは講師陣のご協力のもと、企画内容を実現することができた。し



かしながら、もう一方のグループは様々な企画提案をするも、実現が叶わなかった。例えば実現に至らなかったものとしては、「自由が丘のスイーツをデビュー間もないアイドルに食べてもらい、SNSで発信してもらおう」といった企画や、「自由が丘ならではのフレーバーで“自由が丘ラムネ”をつくる」「キッチンカーで辻口シェフのライブショーを行う」など、多種多様なものがあった。目のつけ所は面白いものもあり、講師の方々からフィードバックをもらい、実現に向けて努力していたが、様々な制約や、来街者の心を動かすには至らないなどの理由により、断念せざるを得なかった。

そのような中で実現にこぎつけたのは、「石川県のイチジクを使ったシュークリーム」を辻口シェフに製作、販売してもらおうという企画である。震災や豪雨の被災地となった石川県の「黒蜜姫」という希少性の高いイチジクを使うという商品であった。



重要なのは、この企画は単なる商品企画ということではなく、「辻口シェフのコミュニティを拡大する」という目的を掲げ、そのために当該商品を活用したことである。目的がコミュニティ拡大であるので、販売に際しても辻口シェフの公式LINEと連動させるなどの工夫をしながら、登録者数推移のデータも追いかけて確認、検証を行った。

当該商品は辻口シェフのお店のひとつである「自由が丘ロール屋」にて期間限定で販売された。自由が丘女神まつりが開催された10月13日～14日も販売期間中であったが、商品の特性上、シュークリームを販売することはできなかった。しかしながら女神まつりにて当該商品のプロモーションブースを設置させて頂くことはできた。当日のプロモーションの仕方についても、履修生は開始当初は要領を得ずうまくやれていなかったが、次第に来街者に積極的に声をかけチラシを渡したり、商品を買に行きたいという方に店舗まで付き添ったりするなど、短期間の中で様々なことを経験、学習し、行動することができるようになっていた。

これらの学生の活動から、企画提案をして終了ということではなく、それを実行に移し、経験することができる当該授業の価値を改めて感じる事ができた。



一方で、企画実現にこぎつけられなかったグループからは、次の代にスイーツプロモーションの授業の魅力を伝え、履修生を増やしたいという提案があった。自分たちの代の人数が少なかった理由を深掘りして考え、対策を練り、当該授業をプロモーションしていきたいという提案である。実際に行った活動としては、説明会を実施する、各ゼミをまわって紹介する、ポスターを作成するなどである。説明会には100名近くの集客をするなど、地道に行った活動が成果として現れていた。



授業を担当している教員の立場としては、履修生たちが「スイーツプロモーションの魅力を後輩に知ってもらい、次年度盛り上げていきたい」と思ってくれたことが嬉しく、自分たちだけに留まらない広い視野を持てていると感じ、履修生の成長を感じることができた。

おかげで、2025年度の履修生は2023年度以前の規模での開講ができる見込みとなった。尽力してくれた履修生たちに感謝したい。

## 総括

当該授業における講師陣の経営者目線でのフィードバックは、学生にとってはレベルの高いものである。しかしながらそれに食らいつき、くじけずに何度も提案し、それを実現にこぎつける経験は、決して誰もがができるわけではない、貴重なものである。現に当該授業にしっかりと向き合った履修生たちは、一年間で頼もしい姿に成長する。教育に携わる者として、これほど嬉しいことはない。今後も履修生たちが成長できる学びの場を、自由が丘の街の方々と協力、連携し合いながら、継続的に提供していきたい。

# 石垣島—自由が丘ブランディング2024 振り返り

高原 純一、小林 幸平

## はじめに

石垣島—自由が丘ブランディングは、経営学部2年次後学期授業科目で、経営学部所属の経営、マーケティング両学科生から成る希望選抜型定員約10名の授業である。石垣市と本学との連携の中で、経営学部1年生全員が取り組むPBL（Project Based Learning）のテーマが経年で石垣島地域創生となり、本授業はその上位授業として、石垣島や地域創生活動により深く取り組むことを目的として7年前に創設された。

本授業の特色はフィールドワークにある。文化人類学におけるエスノグラフィー概念を導入し石垣島と自由が丘という二つの離れたユニークな地域と都市を複眼で事実観察し、そこから見られる差異や掛け合わせをもとに、社会や人々の課題や価値の抽出と解釈を行い、明日の社会への提言・提案を仮説化する調査・分析を基礎とした体験創造型授業である。

以上、本授業における渡航型授業という特色からコロナ禍ではオンラインにて授業を実施していたが、2024年度は満を持しての石垣島渡航が叶ったことが特記される。

## 石垣アイランダーサミット

2024年授業を企画する中で、一昨年度より本授業として参加した石垣アイランダーサミットでの活動実績が石垣市のみならず幅広い分野の方々より高く評価頂き、ぜひ今年も参加してほしいと強い要望を受け、3年連続で参加することとなった。アイランダーサミットは石垣島を起点に、カウアイ島やサルディーニャ島など、世界中の島々が繋がり、島目線で現在の社会の状態を分析し、これからの社会の在り方を提言していくという島発信の世界サミットである。2024年が6年目の開催となる。一昨年度、昨年度はオンライン参加であったが2024年度は石垣島現地での対面参加を果たせたことは履修生、教員のみならず本サミット関係者の大きな喜びとなった。

## テーマはトランスフォーマティブ —新しい世界線への変革—

2024年のアイランダーサミットが掲げるテーマは「トランスフォーマティブ —新しい世界線への変革—」である。昨年度はIDGsをテーマに掲げSDGsという外向的な社会目標をより一人一人の個人としての内向的な個人目標IDGsとしてテーマ掲揚することで一人一人の心理的変化を期待するサミットとなった。そしてその基礎を受けて今年度は更にトランスフォーマティブ<変革>を起こそうとアクセルを踏む力強いメッセージを島から世界へ発信しようという目論見となった。そのテーマの中で履修生はまさに変革のテーマを自らが見つけそして大人たちや社会へ向けて変革すべき概念や概要を高らかに提言した。

## 変革に向けたグループワーク

イベントや商品開発は手慣れた本学の学生たちにも、アイランダーサミットにおけるトランスフォーマティブという壮大なテーマは荷が重く、スタート時点での戸惑いは想像以上に大きい様子だったが、ブレイクスルーはやはり事実との向き合いにあった。デスクトップリサーチにおける膨大な二次データとGoogle Earthなどのリモート観察ツールを駆使して収集した様々なファクトは、徐々に学生たちを勇気付けていった。もちろん関係する方々（アイランダーサミット関係者、石垣島の皆さん、自由が丘の皆さんなど、大変多くの方々にお世話になりました。

この場を借りて改めてお礼申し上げます。) から頂く広く深い重要な事実もあり、自信と確信あるプランが徐々に出来上がってきた。履修生は全員で10名。10名の学生は3つのグループを作成し、プロジェクトに取り組んでいった。教員はナレッジワークやファシリテーションサポート、また石垣島に居住、渡航経験を持つことによるリアルで潤沢な情報サポートも行っていった。

ひとつのグループは石垣島と自由が丘を複眼で観察し十分なデータを用意し石垣の島人の在るべき人としての姿と自由が丘の街人の寂しげな現状とを比較し島に学ぶべきライフスタイルへのフォーカスを提言した。もうひとつのグループは石垣市の抱える教育問題を産業能率大学がそのソリューションパートナーとしてサポートするプランを提案した。更にもうひとつのグループは、島の抱える天変地異や地政学上の脅威を解決するアプリの具体的な提案を行った。

ここで重要なのは、全企画とも単に商品開発やイベントを実施する企画ではなく社会課題解決視点でのクリエイティブ・ソリューションを目指した企画であることだ。

詳細を述べるには紙面に限りがあるのでここでは割愛するが、ご興味ある方は一報いただければ幸いである。

## 変革への意思がクリスマスプレゼンテーションを生んだ

11月初旬、アイランダーサミット本番が石垣島中心部に位置する島のコミュニティ拠点チャレンジ石垣島で開催された。石垣島民、有識者等参加者に対して学生3グループからプレゼンテーションが行われた。さらに、プレゼンテーションに終わることなく、プレゼンテーション内容に対して参加者と学生による深いダイアログ（対話）が行われた。プレゼンテーションはある意味アイデアの出発点であり起爆剤である。その後のダイアログをいかに質の高い領域へと導き、そしてダイアログを完結させていけるか、学生たちにとっては未知の領域へのチャレンジになる。しかし、そこでのダイアログは予想を超えて本質的な議論となり、参加者と学生が一体となって明日へのトランスフォームをお互いが確認し合う場へと昇華した。十分な成果をその場にいる全員が確信した。

成果はそこに留まらず、思いもよらない副産物まで学生たちに与えてくれた。プレゼンテーション及びダイアログの良質さから、サミット事務局長の前野様が経営する大手イベント会社ホットスケープ様のオフィスでの「石垣島アイランダーサミットネクストステッププレゼンテーション」に招かれるという機会が実現した。各グループが考えたアイデアをアイランダーサミットでの島の方々とのダイアログで得たブラッシュアップポイントから更なる変革へと昇華した提言を行った。

当日、街は既にクリスマスイルミネーションで彩られており、履修生への少し早いクリスマスタイムになったのではないだろうか。

## 最後に

やはり渡航体験は特別な学びを与えてくれる。勿論テクノロジーのおかげによるオンライン体験も今の時代便利なものではあるが、経営やマーケティングを実学として学ぶ者において「特別な体験」ほどかけがえのないものはない。ここではあえてその真実は伝えない。なぜなら本論考をお読みのお一人お一人が出来れば島における特別な体験をご自身で自分ごととして頂きたいからである。そしてその先にある「変革」をまさに今時代は待ち望んでいるのではないだろうか。



# 2024年度自由が丘コンシェルジュ授業振り返り ～特別招聘講師講義に焦点をあてて～

櫻井 恵里子

## はじめに

「セザンジュ」は、2009年より自由が丘の魅力を伝える街案内人としての活動をしている産業能率大学の学生団体（特別強化クラブ）である。授業科目「自由が丘コンシェルジュ」は自由が丘商店街振興組合と本学とのコラボレーション科目であり、セザンジュの活動を通して、コンシェルジュとして必要な実践的な研修や実習を行い、真のホスピタリティとは何かを理解し、地域連携の場面で体現できるような人材を育てることを目的としている。その活動は、自由が丘の街の防犯（巡回や交通整備）とホスピタリティ溢れる案内が中心となっている。また、本科目はホスピタリティの実践力を高めるため、特別講師を招聘し業界ごとのホスピタリティの特性を講師の実体験から学び、ホスピタリティ対応力や就職活動など今後のキャリアに役立てられるような講義内容に組み立てている。履修を希望する学生には、志望理由を書いてもらい、選考型で履修者を決めている。最近の履修希望のコメントには、「将来目指す業界の特別講師の講義内容も魅力的であるから履修したい」などが多く見られた。特別招聘講師の講義を含めて本科目の充実度につながっている可能性が高いため、今回はブライダル業界とホテル業界の特別招聘講師講義について取り上げ報告する。

## 講義内容について

### (1) ブライダル業界のホスピタリティ

本テーマの特別招聘講師は、ブライダルプランナーとして多くの経験を重ね、業界でもカリスマブライダルプランナーとして数多くの著名人のウェディングを手掛けた方である。現在は、役員としても活躍され、多くの社員に対して指導・育成を実施している。

### 【講義概要】

- 授業テーマ：「ブライダルプランナーのホスピタリティ対応について」
  - 授業目的：ブライダルプランナーとして必要なマナーやホスピタリティ対応について具体的な事例とともに学ぶ。研修を通じて真のホスピタリティとは何かを理解するとともにその実践方法を確認する。
  - 日時：2024年11月21日（木）13:30～15:10
  - コンテンツ内容：
    - ①ブライダルプランナーに必要なホスピタリティ力とは何か
    - ②ブライダルプランナーの具体的な仕事内容
    - ③ブライダルプランナーの仕事術
      - ープランナーの顧客対応（心の温度の変化を感じる・観察方法）
      - ー実際のウェディングプランニング例 【動画】
    - ④ブライダル業界の求める人材
    - ⑤講師が歩んできたキャリアについて
      - ー成功体験・失敗体験
      - ー今後のキャリアの展望など
    - ⑥質疑応答
- ※当日学生が感じた質問だけでなく、事前に履修者に質問内容を募りその内容にも丁寧に答えていただいた

ブライダルプランナーとして顧客に向き合う具体的な方法や、講師がプランナーとして駆け出し時代の初期キャリア期失敗談など具体的なエピソードも盛り込んで話していただいた。実際の結婚式当日の様子などをまとめた貴重な動画を見せて頂き、わかりやすく、かつ心を揺さぶられる印象的な講義だった。



講義の様子

## (2) ホテル業界のホスピタリティ

本テーマの特別招聘講師は、ホテルコンシェルジュとして数多くの経験を経て、現在、ホテル業界へのサービスアドバイザーやホスピタリティ教育を教える大学教員などをされている方で国内外でのホスピタリティに精通されている。

### 【講義概要】

■授業テーマ：「ホテルコンシェルジュのホスピタリティやマナーについて」

■授業目的：コンシェルジュとして必要なマナーやホスピタリティ対応について具体的な事例とともに学ぶ。  
研修を通じて真のホスピタリティとは何かを理解するとともにその実践方法を確認する。

■日時：2024年12月19日（木） 13:30～15:10

■コンテンツ内容：

- ①ホテルコンシェルジュに必要なホスピタリティ力とは何か
- ②コンシェルジュの成り立ち・歴史
- ③ホテルコンシェルジュの仕事術  
(ゲストニーズをとらえる、ネットワーク構築、プロのコミュニケーションとは)
- ④ホテル業界の求める人財、あるべきホテル経営
- ⑤講師が歩んできたキャリアについて
  - ―成功体験・失敗体験
  - ―今後のキャリアの展望など

⑥質疑応答

※当日学生が感じた質問だけでなく、事前に履修者に質問内容を募りその内容にも丁寧に答えていただいた

講義の途中ではアクティビティが行われた。設定は「相手は宇宙人で、日本語しか通じない。ジェスチャーは禁止で、言葉だけでコーラの瓶の栓の抜き方を伝える」というものである。

学生が苦戦しながらも、コミュニケーションは言葉だけでなく、ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションも重要であることを体感できた。



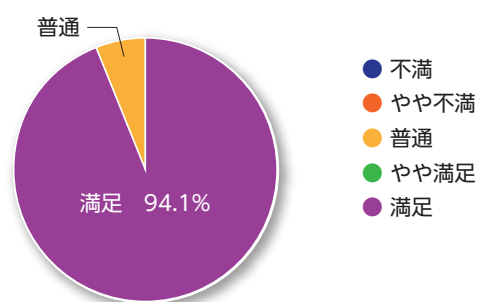
アクティビティの様子

## 授業評価

授業終了後にアンケートを実施した。特別招聘講師の総合満足度に対する問いには94.1%の学生が満足と回答した。

自由コメントとしては、「講師の体験談が具体的で良い」「貴重な動画やアクティビティなど飽きがこないわかりやすい講義だった」等があり、講師の説明やインストラクションの評価も高い。

また「講師の佇まいが素敵で業界を背負うプロの姿勢を感じた」など、講師のホテルコンシェルジュ、ブライダルプランナーとしての立ち居振る舞いから、ホスピタリティ業界のプロ人財としての在り方を感じ取っていた。「実際に働いている人からそれぞれの仕事のやりがいや大変だったことを聞き、具体的な将来のイメージができた」「外国人のお客様との接し方について学ぶ機会が少ないため、コンシェルジュの仕事術はとても勉強になった。サークル活動や来街者対応で外国人の方の対応時に学んだことを活用していきたい」など講義内容をサークル活動や就職活動など将来のキャリアに紐づけたコメントが多く見られた。



## まとめ

「外部講師の方が多く来てくださり沢山の貴重なお話を聞くことが出来ました。これがこの講義の魅力の1つであると思います」という前向きな評価コメントにあるように、特別招聘講師の講義が「自由が丘コンシェルジュ」の科目全体の充実度や満足度にも寄与している。また、ホスピタリティの重要性を理解し、実践できるよう学生を導くためには、特別招聘講師だけでなく、本科目を担当する教員自身の立ち居振る舞いや姿勢も問われると感じた。今一度、ホスピタリティの実践力を養い、臨機応変なコミュニケーションができていくかを自戒し、教員自身もリーダーシップの在り方を見直す必要があるのではないか。

最後に、私が前職で所属していたテーマパークを創ったウォルト・ディズニーの言葉を紹介したい。これはホスピタリティ力のある組織のリーダーシップのあり方を述べている。

「リーダーシップとは基準を確立し、創造的な風土を管理する能力である。そして個々の価値を十分に認められた参加型の環境において、人々は長期的、建設的目標の達成に向け、自ら動機づける」

# 過去最大級の大盛り上がりを見せた 自由が丘イベントコラボレーション

小杉 樹彦

## はじめに

本学の特色授業の一つである「自由が丘イベントコラボレーション」は、地域連携をベースにこれまで数多くの優秀な人材を輩出してきた。今年は地域の方々と本学学生が密に連携を図りながら主に以下のイベントを行った。

- ・自由が丘スイーツフェスタ
- ・自由が丘マルシェ
- ・自由が丘女神まつり
- ・サンクスリバティ

上記のイベントの中から、特に今回は過去最大の盛り上がりを見せた「自由が丘女神まつり」と、今期履修生にとって集大成となった「サンクスリバティ」を中心に振り返ってレポートしたいと思う。

## 自由が丘女神まつり

自由が丘女神まつりは自由が丘の街の最大のイベントであるが、特に今年は事前にこのイベントを紹介する地上波テレビ番組の放送があったことから、当日は大変な盛り上がりを見せた。出展するイベントの数も大変多く、南口、しらかば、広小路、旭会、中央会など、各商店会のどのエリアにおいても大変な賑わいを見せていた。いずれも本学学生が企画立案から実行に深く参画しており、充実した経験を積めたものと考えている。

イベント当日は多くの参加者が集中し、一時的には現場が慌ただしい場面も見受けられたが、全国から人が殺到することを予測し、事前にリスクマネジメントを徹底していたため、大きな事故やトラブルが起こることはなかった。イベントにトラブルはつきものであるが、今回のように入念な準備を行い、人事を尽くしたことがイベントの成功に繋がったと確信している。今回のリスクマネジメント、危機管理のノウハウは是非とも、次の代にも引き継いでもらえるようにと検討している。

## サンクスリバティ

サンクスリバティでは、駅前点灯式のサポートにはじまり、さまざまな形でイベント実施に協力させていただいた。特に、今回のサンクスリバティでは、元大丸ピーコックの跡地に建設された商業施設「JIYUGAOKA de aone」（イオンモール様の運営）でのイベント開催が大いに盛り上がった。

当日は、点灯式が円滑に進むよう、担当する本学学生はサポート役に徹していた。本イベントは今後、まだまだ発展の可能性があると感じており、次年度も「自由が丘イベントコラボレーション」授業科目として関わる大事なイベントの一つとして、本学学生の活躍を期待したい。

## 履修した学生の成長

この授業では学生に授業の冒頭に目標を決めてもらい、中間（夏季休暇頃）と、最後に授業で身についた「能力」、  
「授業で学んだどのような知識を活用したか」について振り返りをしてもらっている。

学生が身についたと回答した主な能力と活用できたと思う経営学の知見は以下の通りである。

### 【身についた能力】

- |         |         |           |
|---------|---------|-----------|
| ・ 協働力   | ・ 親和力   | ・ 計画実行力   |
| ・ 計画立案力 | ・ 統率力   | ・ 行動維持力 他 |
| ・ 実践力   | ・ 課題発見力 |           |

本授業科目はグループワークを重要な学びの手法としていることから、「協働力」や「統率力」が回答されている点は大いに納得がいくだろう。また、各回の授業で本学教員や外部講師からスケジュールの調整や計画管理について求められることも少なくないため、計画立案力が多いのも理解できる。

続いて、本授業科目で活用できた経営分野の知識について紹介する。

### 【活用した経営学の知見】

- |               |              |               |
|---------------|--------------|---------------|
| ・ マーケティング     | ・ 行動観察       | ・ 人材・組織       |
| ターゲットング       | ・ 消費者心理      | 人間関係          |
| プロモーション       | ・ 思考のフレームワーク | リーダーシップ       |
| マーケットリサーチ     | SWOT分析       | 組織運営          |
| 価格設定          | PEST分析       | コーチングスキル      |
| ブランド戦略        | 6W2H         | ・ 利益計画・経営分析 他 |
| メディアコミュニケーション |              |               |

例年、学生の多くが挙げるのが、マーケティングの知識を活用したという振り返りである。これは授業中に、来街者のニーズ、自由が丘の街のニーズを調査、検討し、イベント企画を考案するからであろう。消費者の行動観察や心理の探索も挙げられている。さらに、各種分析フレームワークや人間関係論の知識の活用を挙げる学生も一定数おり、担当教員としては大変嬉しい限りである。

最後に学生が、本授業科目で習得したことを今後どう活かして行動していくか、これまでの反省も含めた回答を紹介したい。

### 【本授業科目での成果を今後どう活かすか】

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| ・ 主体的に行動するように努める          | ・ スピード感をもって物事に当たるよう努める |
| ・ 人と積極的に関わるようにする          | ・ まずは自分から積極的に動くようにする   |
| ・ 他人の特性を理解し、その人材の適材適所を考える | ・ 他人の意見を多様的に受け入れるようにする |
| ・ トップに立つ人間の立場を理解するように努める  | ・ 仲間を大切にする             |

上記のように、ポジティブな今後の活用案が多く挙げられた。本授業を履修した学生の多くは、例年、次年度に「エンターテインメント・ラボ」という同好会に属して、引き続き活動を継続することになる。こうした伝統ある授業スタイルは今後も継続され、学生が社会人になった暁には、ここでの経験がさまざまなシーンで生きることを期待してレポートを締めたい。

# 街案内人 セザンジュの活動報告

都留 信行

## はじめに

セザンジュは、2009年12月より「安心・安全の街プロジェクト」の一環として、自由が丘商店街振興組合と産業能率大学の協働により発足した。セザンジュの名称は、フランス語で「彼女の天使たち」を意味している。自由が丘駅前に立つ女神像(=彼女)に代わって、街を守る天使たちという思いが込められている。

秋葉原の歩行者天国の事件をきっかけに東京都が行った「繁華街等における体感治安の改善事業」を端としている。無線を持ち街中を巡回したり、人気スポットへの案内を通し、来街者に自由が丘の魅力を伝える街案内人として活動することで、事故・事件を未然に防ぐ「見せる安全」に寄与している。また、イベント時の案内やお手伝いを行うことで、自由が丘全体の魅力を伝えている。今年度は新たな試みとして、東急電鉄様からの要望により、自由が丘駅シースルー改札内でののご案内を試験的に始めている。更に、こうした活動時の接遇等スキル向上のため、ダイバーシティ研修、手話講習や上級救命講習などを適時行っている。

メンバーとしては、産業能率大学の学生団体を主体とし、授業科目「自由が丘コンシェルジュ」の履修者も含めて活動を行っている。団体人数は1～4年生74名、女子65名、男子9名(2024年12月時点)で構成されている。活動日は、毎週日曜日、祝日・イベント時に実施している。



自由が丘スイーツフェスタ



## 主要イベント活動について

以下は、年間を通した主たる活動である。

- 自由が丘スイーツフェスタ（2024.5.4～5.6）
- 自由が丘納涼盆踊り大会（2024.7.13～7.15）
- 令和6年度防犯ボランティアフォーラム（2024.07.27）
- 第50回自由が丘女神まつり（2024.10.13～10.14）
- 地域安全目黒区民のつどい（2024.10.12）
- 三行合同特殊詐欺根絶集会（2024.10.15）
- 碑文谷特殊詐欺防ぎ隊イベント（2024.10.28）
- サンクスリバティ（2024.12.1）
- 自由が丘帰宅困難者対策協議会 避難誘導訓練（2024.12.17）
- 目黒区長感謝状贈呈式（2025.3.24 予定）



自由が丘納涼盆踊り大会

地域安全目黒区民のつどい



サンクスリバティ



# プロスポーツ選手のセカンドキャリアとオリーブ栽培 —元湘南ベルマーレフットサルクラブキャプテンとのコラボレーション—

松岡 俊

## はじめに

情報マネジメント学部のコース横断科目として2022年に開設された「地域ブランド創造プロジェクト」は2024年度で3年目を迎えました。現在は湘南オリーブの認知度向上を目的に様々な活動を活発に展開する科目へと成長を遂げていますが、実は開設前の2021年度、1年間の試験的運用の期間がありました。

この試験的な運用期間に取り組んでいたことについて今回は触れてみたいと思います。

## 湘南地域の地域課題の検討

「地域ブランド創造プロジェクト」では当初、湘南オリーブの認知度向上だけでなく「湘南地域の地域課題」として以下のようなテーマを含め広く検討していました。

- ・気候変動に伴う農業における栽培品種の再検討
- ・増え続ける耕作放棄地対策
- ・急速に減少する農業人口対策
- ・プロスポーツ選手のセカンドキャリア対策

### (1) 気候変動に伴う農業における栽培品種の再検討

オリーブ栽培が盛んな西日本において目立つのが、気候変動によりミカン農家が深刻な状況に置かれているという点でした。とりわけ日本産のミカンの大半を占める温州ミカンの「浮皮」問題です。「浮皮」とはミカンの皮と実との間に隙間が生じミカンの品質が劣化する現象です。そのため気温の上昇にも対応できる地中海産の柑橘類を植えてみたり、化学的な対応を検討したりと様々な対策が今日まで行われています。しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足などの理由からこれといった有効な対策がなされていないのが現状です。そうしたなか、唯一効果的な対策がミカン栽培からオリーブ栽培への転換でした。気候や土壌環境といった点で転換しやすく有効な対策ですが、西日本で実際に取り組んでいるのはインフラ系の大手企業が中心でした。

### (2) 増え続ける耕作放棄地対策と急速に減少する農業人口対策

そうしたこともあり、中小の栽培農家が生産を中止し、耕作放棄地と一般に呼ばれる農地が拡大していました。湘南地域でも西湘地域と呼ばれる平塚、大磯、二宮、小田原地域はミカン栽培が盛んであり西日本と同じ課題を抱えていました。また、農業人口が急速に減少しているという問題もあります。

### (3) プロスポーツ選手のセカンドキャリア対策

本学がスポンサー契約をしているプロサッカーチーム、湘南ベルマーレにはプロフットサルチームも存在します。小田原市を拠点に活動していますが、サッカーチームと比べると湘南地域出身の選手の比率が高いのが特徴です。サッカーやフットサルに関わらずプロスポーツ選手の大きな課題の一つがセカンドキャリアです。Jリーグ自体が数十年前からセカンドキャリア対策を実施していますが、これといった成果を上げていないのが実情です。

そこで、引退後の選手ができるだけ地域で働くことができればと考え、オリーブ栽培に従事する可能性を検討していました。

## プロスポーツ選手のセカンドキャリアとしてのオリーブ栽培

2021年、上記のような点について検討した矢先、現在地域連携として4者協定を結んでいる、ファームビレッジ湘南の代表より連絡があったのです。現役のプロフットサルチームのキャプテンが祖母より相続した耕作放棄地の名義変更を完了し、そこにオリーブを植えるとのことでした。もちろん引退後のセカンドキャリアを意識しての対策でした。

しかも、その場所が湘南キャンパスのある伊勢原市内ということもあり、早速、オリーブを植樹する段階から学生たちに手伝わせてほしいと申し出たのでした。

その結果、誕生したのが現在、「地域ブランド創造プロジェクト」を履修する学生たちが1人1本責任栽培制として管理しているオリーブ畑です。

プロフットサルチームのキャプテンは2年前に現役を引退しましたが、引き続き学生たちとともに栽培・収穫に従事しています。未だ利益を出すまでには至っていませんが、オリーブ栽培を経験したことのない本学の学生たちが「オリーブの認知度向上」のためのプロジェクトに1年を通して自信をもって関わっているのもこのオリーブ畑があってこそです。土壌、台風対策のための柵の設置、害虫対策のための農薬散布、施肥、草刈りなどを通じ、収穫されたオリーブだけでは理解できない視点を企画に反映できているのもこの畑からの情報がもたっています。



## おわりに

プロスポーツ選手のセカンドキャリアとオリーブ栽培、耕作放棄地解消とを結びつける活動はまだまだ道半ばといったところです。しかしながら、こうした活動の積み重ねがひいては「湘南オリーブ」の認知度向上につながるものと考え今後も活動を続ける予定です。

来年度は、コラボレーションしている選手の名を冠したオリーブの商品化を考えており、コラボレーションのレベルを1段上げていくことも考えています。

# 自由が丘イベントコラボレーション第16期報告

西村 康樹

「自由が丘イベントコラボレーション」(以下、イベコラ)第16期の報告をしたい。2年生の履修授業なのだが、やりがいを感じ深く関わってくれた学生達が、3年/4年次も自由が丘の人間や関わる企業、団体などのパイプ役として、また後輩達の指導役として約半数くらいが残ってくれるという、継続性が担保されている授業運営となっている。

第11期から第14期くらいまではコロナ禍の影響で自由が丘のイベント自体が中止や縮小となった年で、この継続性が限りなく弱くなってしまった。その名のとおり、自由が丘のイベントの企画運営をする授業なので、授業自体の存続すら危ぶまれた。第15期の年は、やっと1年を通して自由が丘のイベントや活動も再開し、以前からの伝統的なものはほとんど薄れたが新しいイベコラを創りだしていくような学年となり、そこからの今期の第16期である。

この授業がどこまでやれるかということへの前提条件となる自由が丘の街も新しい体制となった。7年間の長きにわたり自由が丘商店街振興組合の理事長を務めた原氏が退任、コロナ禍という大変な時期にねばり強く街をまとめていただいたと思う。その後任に岡田一弥氏が就いた。岡田理事長は再登板となるのだが、自由が丘商店街振興組合の役員を大きく入れかえた。私は約20年間担当してきた出版企画事業部長から総務部長になり、イベコラに大きく影響をあたえるイベント企画事業部長にはイベコラ講師でもある奥角翼氏がついた。その他の部所にも青年部世代のメンバーが多数入り、全体的に若返りがはかられた。このような自由が丘の状況、また1年間で最大のイベント「自由が丘女神まつり」は第50回記念と、盛り上がるに決まっている状況の中で新生イベコラの学生達が活躍しないわけがない。以前から述べているが、大人達が本気の年の学生達は伸びる。

この授業のつくりを説明したい。履修生は30～35人としている。例年70人前後の履修応募は来るのだが、人数が多ければ良いというものでもないで、この人数にしている。これを6つの企画班にわけ、このチームで女神まつりまで様々な企画をたて自由が丘の商店街や企業などにプレゼンしていく。もちろんリアルの中かでやる授業なのですべてがうまくいくわけではない。

この班とは別に自主班というものもつくられる。この自主班はすべて自己責任の自由選択となっている。この自主班について詳しく説明したい。先輩達の代から継続している班や新しい案件のためにつくられる班、また消滅してしまう班などがあり、今年は12の班が活動した。このうち6つの班は町会担当班となっている。自由が丘には12の商店街があり、そのうち6つの商店街(駅前中央会/南口商店会/広小路会/しらかば通り会/旭会/ひかり街)が継続性を持ってイベコラの学生達を受け入れてくれている。商店街ごとに活動内容や立地によるテイストも違い、様々個性があるのが面白い。そこに入って活動している学生達も先輩から後輩にその会の伝統やスピリッツなども伝わっていて、その会の人っぽい雰囲気になんていっていいかなんとも凄いなと常々思っている。

そのほかの6つの班は案件ごとの班である。おもちゃ班は、老舗の「おもちゃのマミー」さんが自由が丘のイベントで行う「おもちゃ博」などの手伝いをする。ホイップるん班は自由が丘のキャラクター「ホイップるん」の運営をする。丘ばち班は振興組合の環境部の事業である、自由が丘で蜂を育てハチミツを採るという「丘ばちプロジェクト」の手伝いをする。テラスクラブ班は、大型商業施設「JIYUGAOKA de aone」のテラスにて行われるイベントの手伝いをするチームで今期新設された。あおぞら班は、もともと女神まつりにむけた第4企画班が南口商店会で行ったイベント「AOZORA SOUTH TOWN」を今後も継続しようということで第17期に向けて結成された新しい班。タリーズ班は2年目で、自由が丘駅前にある「タリーズコーヒー」とコラボレーションする。以上が今期活動した12の自主班だ。企画班はどちらかというと授業としては仕事のチーム。自主班は授業内サークル的な感じだろうか。このように班編成自体が二重構造になっているのも、この自由が丘イベントコラボレーショ

ンの面白いところではないだろうか。

授業としての本来の活動である企画班からは、どちらも大型プロジェクトとなった成り立ちの違う2つの目立った実績をお伝えしたい。女神まつりでの企画である。

第4企画班が手がけた「AOZORA SOUTH TOWN」は、学生が企画をして南口商店会にプレゼンし場所と資金を確保、参加企業に交渉し協力も得ていくというパターンの成功例だ。企画内容は南口の緑道にて、子ども向けの職業体験ブースを展開するというもので、企画自体に驚きをもつような新規性があるものではないのだが、その実行力には目を見張るものがあった。7つの体験コーナーを展開したのだが、すべて自由が丘にお店があったり関わりがあったりする企業に声をかけているので、しっかりと自由が丘テイストに仕上がった。「無印良品」による雑貨ショップ店員体験、「(株) きらぼし銀行」による銀行員体験、「タリーズコーヒー」によるカフェ店員体験、「GAP」によるコーディネーター体験、「(株) 朝日学生新聞社」による新聞記者体験等々。特筆したいのが、「ユニオンテック(株)」による職人体験だ。ユニオンテックは、イベコラ6期生の授業キャプテン倉持沙氏が勤めている内装デザイン会社だ。今期1年を通して授業OBとしてイベコラ授業に参加してくれた倉持氏を巻き込んだことは、結果を出す上で非常に大きかったのではないと思う。企画だけではなく、どうすれば良い結果を出せるかを考え実行するのも、イベコラでの良い学びだと思う。このあおぞら班は、第17期の代にはなるが2025年の5月のイベントでも、よりパワーアップして展開する予定である。次は消防や警察なども参加するとのことである。

The poster is for a children's job experience event titled "AOZORA SOUTH TOWN 子どものお仕事体験 開催!! 2024女神まつり". It features a colorful design with a rainbow and various icons representing different jobs: cafe staff, bank teller, journalist, artist, and shopkeeper. The event is scheduled for October 13th and 14th, 2024, from 12:00 to 18:00. The fee is 300 yen. The venue is the Aozora South Town. The poster also includes a map of the venue and a list of participating companies: Cafe Tazaki, Bank of Kiraboshi, Tazaki Coffee, GAP, Asahi Student News, and Union Tech. It also mentions that the event is organized by the Aozora South Town and the Aozora South Town Association.

The poster is a content list for the "AOZORA SOUTH TOWN" event. It lists seven different job experience activities: Bank Teller, Cafe Staff, Journalist, Artist, Shopkeeper, Coordinator, and Job Experience. Each activity is described with its content, fee, and participating company. For example, the Bank Teller activity is for 100 yen and is held at the Bank of Kiraboshi. The Cafe Staff activity is for 100 yen and is held at Cafe Tazaki. The Journalist activity is for 100 yen and is held at Asahi Student News. The Artist activity is for 100 yen and is held at Union Tech. The Shopkeeper activity is for 100 yen and is held at Muji. The Coordinator activity is for 100 yen and is held at GAP. The Job Experience activity is for 100 yen and is held at Union Tech. The poster also includes a list of participating companies: Cafe Tazaki, Bank of Kiraboshi, Tazaki Coffee, GAP, Asahi Student News, and Union Tech.

もう1つは第6企画班が手がけた「自由が丘展」だ。これは女神まつり第50回記念企画であり、自由が丘商店街振興組合のコンテンツで、私の担当で行ったイベントだ。これはまず先に「自由が丘展」をやるということで場所、予算を確保してある中、第6企画班に内容の積み上げ、企画書づくり、交渉、設営や装飾の考案、PR等々を依頼した。実際の設営や会期中の受付など人員の確保、関係者を招いてのレセプションの企画運営など、なにからなにまでを協力してもらい、イベコラ第6班がなければ恐らくこの「自由が丘展」は開催できなかったと思う。結果、会期中5000人以上の集客をし、のちの評価も高いイベントとなった。

しつこいようだが、自由が丘の大人が本気の年の学生達は伸びる。第16期は女神まつり第50回ということもあり、熱い自由が丘の1年を一緒につくってきた。そのメンバーが先輩となつての第17期が始まる。

# 第50回自由が丘女神まつり記念企画

## 自由が丘展 NO LIMIT

2024年10月7日(月)~14日(月) 10:00~18:00

会場 自由が丘駅前劇場分館株式会社ジュエ・スタジオ

協力(右)増田商事 岡田マル(株) 西村文化会

おもしろサミット 学校法人慶典館大生大

会場ニューホロミュージックアートスペースMASUDA

(自由が丘2丁目16番)

入場料 無料

product 西村文化 西村文化 西村文化 西村文化 西村文化 西村文化 西村文化 西村文化 西村文化 西村文化

自由が丘展

自由が丘展

自由が丘展

公式Instagramでは詳細情報をお知らせします  
 公式Twitterでは最新情報をお知らせします  
 又は下記メールアドレスまで  
 iyugakano714@gmail.com

商業高中大卒の特設授業「自由の色パレット」は、ジョーダン・シェン  
と「成城名目録」の活動家と一緒に制作。成城色は表現  
しているブースの一瞥、サマを配布。イベントはジョーダン・シェン  
の自由の色パレットとしておこなった自由の色パレット調査の報告を

# 総合研究所が2024年度に実施した 産学連携の振り返り

川合 広訓、天野 健司

## はじめに

総合研究所では、全国の民間企業、官公庁・自治体の人事・教育担当者向けに、人材育成に関する情報収集・課題解決に役立つイベントを随時開催しています。

イベントでは、外部の研究者や実務家を招き、経営管理研究所 研究員や総合研究所の職員がファシリテートしながら進めることが多いですが、近年は、産学連携を実践している組織であるという本学の特徴を活かし、本学教員がスピーカーやファシリテーターを務めるイベントも増加しています。

2024年度のテーマは「若手社員育成」とし、時代に則した環境変化や人材育成のトレンドを押さえながら、研究や調査結果を背景にイベントを実施しました。今回は、2024年度に本学教員がスピーカーとして登壇した総合研究所が開催したイベントについて報告します。

**【2024年6月13日開催】 20代社員が職場で活躍するために（日本の人事部主催）**

**【2024年11月6日開催】 働きがいを高めるために必要な条件と施策とは（日本の人事部主催）**

近年、毎年出展している日本の人事部（<https://jinjibu.jp>）主催のイベントに、2024年度は春と秋の2回出展しました。

6月13日開催のイベントでは、「20代社員が職場で活躍するために」をテーマに、筑波大学ビジネスサイエンス系助教池田めぐみ氏と本学経営学部齊藤弘通教授が登壇しました。

第一部は、池田めぐみ氏より、若手社員の成長や定着支援の鍵として「ジョブ・クラフティング」による職場環境づくりを提言しました。池田氏は研究者として独自の調査結果を基に、若手にとってのジョブ・クラフティングの課題を実際に生じている場面例を交え、職場における解決の観点をわかりやすく紹介しました。

第二部は、齊藤教授より、企業が若手育成の施策を実施するにあたり振り返るべき視点を提言するとともに、池田めぐみ氏のジョブ・クラフティングの考え方を活用した若手社員のマインドセットの変え方を紹介しました。

6月開催のイベントが好評だったこともあり、11月6日開催のイベントでも、「働きがいを高めるために必要な条件と施策とは」と題して、両研究者が登壇しました。11月開催では、本学が8月に実施した「大卒1～3年目若手社員の实態調査」を基に、今の若手社員の实態を明らかにし、若手社員の職場満足度を高め、自身が成長を実感できる職場づくりの実現に向けて必要な条件と施策について提言を行いました。講演の最後には、齊藤教授より若手社員の育成のあり方として、「成長を求める若手社員の気持ちを踏まえた仕事環境・育成体系の検討」「成長が実感できるようなローコンテキストなフィードバック」「ジョブ・クラフティングを促す働きかけ」の3つが提言されました。11月開催の講演は、特別講演全192講演中、満足度上位講演6選に選出されました。



齊藤教授

**【2024年5月15日開催】**

## **α世代の特性からZ世代の人材育成戦略を見直す（日本の人事部主催）**

日本の人事部主催「HRカンファレンス2024春」特別講演に、表題のタイトルで小々馬教授と山中主任研究員が登壇しました。

小々馬教授からは、Z世代からα世代への“変化の流れ”をつかむことの意義が語られました。山中研究員からは、日ごろの研修現場から見てきた今の新人・若手社員のリアルな特徴を紹介しながら、今後の育成のあり方と現場マネジャーの果たすべき役割が提言されました。最後に、視聴者との質疑を交え、両スピーカーからZ世代とα世代への向き合い方について、対談が行われました。



小々馬敦教授（左）と山中悠輝主任研究員（右）

## **【2024年7月9日開催】 マネジメント実践編『人事評価を再考する』**



（左から）横溝教授、原主席研究員、ファシリテーターを務めた石崎マーケティングセンター長

人事評価に関する日常的な取り組みの限界や問題点を提起し、自社の人事評価のあり方を再考する契機となるクライアント向けのイベントを開催しました。

イベントでは大学院研究科長の横溝教授から、人事を取り巻く環境変化を踏まえ、人事評価の問題を提起しました。この問題点について、経営管理研究所人事・マネジメント研究センター長の原主席研究員より現場目線で検証してきた事実と課題、解決に向けた人事部門と現場マネジャーが見直すべき施策や行動について事例を交えながら提言されました。アカデミックな観点からの問題提起と、それに対するコンサルタントからの解決に向けた提言は、参加いただいた皆様から高い評価をいただきました。

## **まとめ**

総合研究所において、近年は学生教育部門と社会人教育部門の連携が強化されています。今後も、社会人教育の立場から、本学の特色を打ち出していくために産学連携の取り組みを強化し、学生教育と社会人教育の相乗効果を高めることにつながる各種施策を展開していきます。

2025年度は、今年度の成果を踏まえ、ジョブ・クラフティングや働きがいをもつ施策に代表される、α世代やZ世代向けの育成戦略をさらに深化させて、企業の人事部門と現場マネジャーが直面する課題に対する具体的な解決策の提案を継続します。

クライアント向けの講演会等のイベントにおいては、実務家やアカデミックな研究者との連携を継続し、本学の魅力度を高めるための情報発信を継続します。

これらの取り組みを通じて、総合研究所は全ての学習者に対し、実践的で価値ある学びの場を提供し続け、社会に貢献する人材育成を目指していきます。

あとがき

「将来を予測するのが困難な状態が続く時代」をVUCA時代と称されています。VUCAとは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった造語です。感染症の流行、大規模な自然災害、IT技術の発達など私たちを取り巻く社会は、まさに予測困難な時代を迎えています。

地域創生・産学連携研究所は、予測困難な時代を生きる私たちにとって必要となる地域社会との関わり方、多様な方々との対話や協働の在り方を調査・研究し、発信することを目途としています。

ポストコロナ時代を迎え、地域との連携やフィールドワークを主体とする本学の授業科目は、本格的に対外的な活動を再開することが可能となりました。特に、「石垣島－自由が丘ブランディング」は、4年ぶりに石垣島でのフィールドワークを実施することとなり、エスノグラフィーの観点をもとに学修することが可能となりました。フィールドワークは、本学の学びにおける原点ともいえる学修形態であり、建学の精神に基づくものでもあります。地域社会を知るうえで最重要ともいえる学修を展開できたことは、大変意義深いものと考えられます。

また、「自由が丘イベントコラボレーション」もスイーツフェスタや女神まつりをはじめとする自由が丘地域のイベントも2019年以来の大規模な状態に戻り、履修する学生もこれまでの空白期間を乗り越え、自由が丘の方々と協働し、新たな時代を切り開く活動が展開できました。自由が丘のステークホルダーとなる自由が丘商店街振興組合の役員も大きく代わり、本学の授業科目の講師を務める先生方が役員に就任されたことで、今後ますますコラボレーションが拡大することが期待されます。

また、自由が丘との取り組みと同様に湘南エリアの地域課題検討を主題に、湘南オリーブの認知度向上を目的とした活動を展開する「地域ブランド創造プロジェクト」も3年目となり、気候変動に伴う農業における栽培品種の再検討、増え続ける耕作放棄地対策と急速に減少する農業人口対策という課題について、学部の子組みを超えた活動を展開しています。人口減少が続く湘南エリアでの地域振興に向け、本研究所の取り組みが奏功することを期待しています。

この研究所の活動の意義は、本学総合研究所の研究員がPBL科目の担当教員として加わり、アカデミックな研究領域と社会人教育での教育ノウハウの結合にあります。また、地域社会で活躍するステークホルダーによる地域振興の実践と成果創出にあります。これらの活動を支えてくださった多くの自由が丘、湘南エリアの皆様には、感謝の言葉もありません。心より御礼申し上げます。

本報告書にまとめられた活動報告は、自由が丘商店街振興組合理事長 岡田一弥客員研究員、同総務部長 西村康樹客員研究員、同イベント企画事業部長 奥角翼先生、古山喜章客員研究員、また各科目の運営にご尽力いただいた有富史浩先生、佐々木敏和先生、宮本直央子様はじめ多くの皆様のご支援の賜物と感謝しております。この場を借りて心より感謝申し上げます。

本学の最大の特徴である教職協働により、この研究所の活動は発展し続けています。次年度も引き続き、この独特の視点をもとに他大学にはない地域創生・産学連携について調査研究を展開したいと考えております。

最後にこの研究所の活動にご協力くださいましたすべての皆様に御礼を申し上げたいと存じます。

## 産業能率大学 地域創生・産学連携研究所 研究員・スタッフ紹介

### 【研究所長】

小林 幸平 経営学部 教授

### 【研究員】

赤羽 治 経営学部 教授

高原 純一 経営学部 教授

都留 信行 経営学部 教授

松岡 俊 情報マネジメント学部 教授

小杉 樹彦 経営学部 准教授

櫻井 恵理子 経営学部 准教授

川合 広訓 総合研究所 研修管理部長

天野 健司 総合研究所 講師管理課長

宮内 浩 大学事務部  
学生サービスセンター長

渡邊 道子 入試企画部 企画課長

### 【客員研究員】

眞壁 潔  
株式会社湘南ベルマーレ 代表取締役会長  
湘南造園株式会社 代表取締役社長

西村 康樹  
自由が丘商店街振興組合 総務部長

古山 喜章  
自由が丘クリニック COO  
株式会社THE MEDICAL 代表取締役社長  
自由が丘駅前中央会 理事

### 【相談役】

岩井 善弘  
経営学部 教授

林 巧樹  
入試企画部長

### 【客員研究員・相談役】

岡田 一弥  
自由が丘商店街振興組合 理事長  
目黒区商店街連合会会長・代表理事  
東京都商店街連合会副会長  
株式会社ジェイ・スピリット代表取締役

### 【事務局】

矢島 雪乃  
大学事務部 学生サービスセンター

沓掛 栄美子  
大学事務部 学生サービスセンター

(2025年3月現在)

2024年度 産業能率大学 地域創生・産学連携研究所 アニュアルレポート 第7号

2025年4月発行

編集／発行 産業能率大学 地域創生・産学連携研究所

産業能率大学 自由が丘キャンパス  
〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15

産業能率大学 湘南キャンパス  
〒259-1197 神奈川県伊勢原市上粕屋1573

WEB : <https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/societylab/>



Regional Revitalization and Industry  
Academia Cooperation Research Center  
Annual Report 2024